

**兄弟別々の保育園**

**55人、24世帯を泣かす公立保育園削減**

2022年度幼保入園状況 (2/1現) (人)					
	施設	予定者	新定員	増+減	計
公立保育園	羽久手	51	55	△20	△95
	天道	84	90	△30	
	築山	96	95	△5	
	日進	130	140	△20	
	鷺塚	193	190	△20	
社協保育園	荒子	128	135	0	変更なし
	西端	139	140	0	
	大浜	143	160	0	
	棚尾	146	160	0	
	新川	122	125	0	
私立	二葉	106	115	△30	△30
	かしの木	87	95	0	
	碧のうさぎ	101	90	0	
	へきなんこども園	182	180	0	
	第2へきなんこども園	74	80	0	
	こども園ひまわり	47	125	新設	125
<b>保育園子ども園合計</b>		<b>1,829</b>	<b>1,975</b>		
公立幼稚園	新川幼稚園	99	160	62%	
	中央幼稚園	85	180	47%	
	大浜幼稚園	85	160	53%	
	棚尾幼稚園	90	180	50%	
	西端幼稚園	67	180	37%	
	幼稚園 合計	426	860	50%	

**公立215人も定数減**  
 新年度の保育園幼稚園の入園状況について日本共産党山口はるみ議員が総括質疑で質問しました。4月から鷺塚林町に愛生館「こども園ひまわり」が開所します。125人の定数に47人が入園します。2019年には「碧のうさぎ」保育園90人定員が開所したばかりです。合計215人の定員を確保するために、公立保育園の定数が削減されています。

**兄弟別々の保育園はひどい**  
 碧南市は平成20〜23年に公立5園を社会福祉協議会に移管し民営化しました。14年経った今、5園の公立保育園は鷺塚保育園以外は、0歳・1歳児保育をやっています。この4園に預けていて下の子ができると、他の園に行かなければなりません。こうして新年度も55人24世帯が2園にまたがって別々に通うこととなります。2月28日に開催された「こども会議」でも青年会議所の代表が「別々の保

の社会になれぬ家族間の保  
 育時間確保あり  
 社会にありあけ  
 ます。行政で  
 責任を押し  
 果たす。行政  
 責任を押し  
 果たす。行政  
 責任を押し  
 果たす。行政

育園で仕事が出来なくなる」と実情を訴えていました。日本共産党はすべての保育園で0歳1歳保育を実施することが、公的保育の責任と改善を求めています。

**ジェンダー平等に反する**  
 保育時間も国が示す「標準保育時間は11時間」とする基準を満たしていません。鷺塚を除く公立4保育園は午前7時半から午後6時までの10時間半。他の園は、午前7時半から午後7時までの11時間半となっています。

この間、市民と日本共産党の運動で、保育時間の延長、2歳児保育の実施と前進してきましたが、兄弟別々園という「準待機児童」状況の打開が必要です。

女性が正規で働き続けるために、支える保育所を、短時間労働前提、乳児は家庭でと行政が考えるのは、ジェンダー平等に後ろ向きと言わざるを得ません。男女とも8時間働けば普通に暮らせる社会、週休3日（アイスランド、スペイン、スコットランドが試験導入）

**保育士3%9千円・月の処遇改善は民間5園だけ**

岸田政権が公約した「保育士などの処遇改善」が補正予算で443.2万円国庫負担金として計上されました。これは2021年の2月3月分。2022年は4月から9月まで国庫負担金が出ますが、その後は「交付金」となります。碧南市のように「不交付団体」は「自前で」ということとなります。国は公私立保育園、児童クラブなどの臨時正規職員を対象にしています。碧南市は民間5園が対象にただけ。児童クラブでは指導員確保に四苦八苦しているのに申請していません。「月9千円アップなんて大ウソ」と怒りが。

**児童クラブは95人 定員超**

	児童数	定数	オーバー
新川	161	140	21
中央	124	140	
西端	66	75	
棚尾	156	130	26
鷺塚	103	80	23
大浜	95	80	15
日進	60	50	10
<b>公立 合計</b>	<b>765</b>	<b>695</b>	<b>95</b>
第2へきなん	20	20	
公私 合計	785	715	

れで処  
 遇改善  
 ニュー  
 スの発  
 行を日  
 本共産  
 党は求  
 めてい  
 ます。

ジに行く希望を開けます。

**児童クラブは定員オーバー**  
 児童クラブは、新川21人、棚尾26人、鷺塚23人、大浜15人、日進10人と公立合計95人も定員オーバーとなっています。市当局は定員の1.3倍まで受け入れられています。また指導員不足となっています。児童クラブ有料化によって年3千万円の収入となっており、こ



今こそノを

# 改憲、非核くずし、敵基地攻撃

## アラスカ実践演習に浜松航空自衛隊も

衆院外務委員会は11日、在日米軍駐留経費負担（思いやり予算）に係る特別協定を日本共産党以外の賛成多数で可決しました。日本共産党の穀田恵二議員は「日米地位協定上も根拠がない。道理なき負担だ」として反対しました。質疑で穀田氏は、特別協定に基づく米軍機の訓練移転先として米アラスカ州が追加された問題を追及。想定されている日米の「実践的な演習」は、『敵基地攻撃』訓練そのものだ」と批判しました。

## 思いやり予算でアラスカ拡大

林芳正外相は、アラスカを新たな訓練移転先としたのは「実践的な演習・訓練の重要性」のためだと説明しながらも「詳細は明らかにできない」と拒否しました。

## 敵基地攻撃そのもの

穀田氏は、航空自衛隊が毎年参加している共同演習「レッド・フラッグ・アラスカ」について、在日米軍司令部が2017年6月の発表文書で「攻勢対航空訓練を行う」と記していると指摘。また、空自が1973年に翻訳し、訓練資料として使用していた米空軍作成の「ドクトリン」（教範）に、「攻勢対航空は、敵国領土内の航空機やミサイル、航空基地、航空戦力を撃破するためのもの」と記載していることを示し、追及しました。



アラスカでの実践訓練に参加する自衛隊 (2021. 6月)

鬼木誠防衛副大臣は「部内向けの文書であり政府見解ではない」としつつも、2018年版のドクトリンに「攻勢対航空」の記述があると認めました。穀田氏は、空自が06年にまとめた「航空自衛隊ドクトリン等に関する調査研究」で「攻勢対航空」を「敵基地攻撃」と記している」と指摘。15年には中谷元防衛相（当時）が衆院特別委員会「航

空自衛隊が職務遂行の必要に応じて作成した資料だ」と認めたことに言及しました。

## 敵基地攻撃II「攻勢対航空」対米公約

さらに、政府が敵基地攻撃について、「相手国の領域でミサイル基地を破壊し、ミサイル発射能力を無力化。さらに攻撃を加える」と説明していることと合わせれば、『レッド・フラッグ・アラスカ』で行われている『攻勢対航空』は敵基地攻撃そのものだ」と追及しました。

穀田氏は、1月7日の日米2プラス2で日本が「敵基地攻撃能力」の保有検討を「対米公約」として表明したことを指摘。アラスカでの実践演習は、政府の言う「自衛隊と米軍が肩を並べて立ち向かっていく」ものであり、まさに戦争する態勢づくりの一環だと批判しました。

## 安倍・高市氏が非核三原則くずし

「持たず、作らず、持ち込ませず」。世界で唯一の被爆国である日本が戦後から今日に至るまで堅持してきた「非核三原則」が「核シェアリング」と言い安倍元総理や高市早苗政調会長が発言、物議を呼んでいます。今の核兵器は広島長崎に投下されたものの10倍の威力を持つといわれており「核の冬」をまねき地球そのものを抹殺する威力を持ちます。非核三原則を守れの世論を広げ、政府が「核兵器禁止条約」に加盟することこそ国民の願いです。

## 不断の努力で憲法遵守を

日本国憲法前文は「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しよう」と努めている国際社会において、名誉ある地位を占めた

「と思う。」とあり不断の努力で憲法遵守、戦争回避、核兵器廃絶の世論と運動が今こそ必要です。ロシアの侵略戦争を目的に当たりにして・・・

**戦争反対**  
**ロシアはウクラ**  
**イナから撤退を**

### 日本共産党碧南市委員会



市議会議員 市議会議員 市民運動部長  
山口はるみ 岡本守正 磯貝明彦  
☎42-8940 ☎41-5357 ☎48-2718  
三度山町 2-70-4 笹山町 6-29 若松町 3-253

### 戦争法廃止 改憲許すな19行動

3月19日 (土曜日)  
午前11時~12時  
ピアゴ碧南東店  
東浦町6-17 (日進小学校南)



日本共産党碧南市議会議員団のホームページをご覧ください。

### 新しい日本をつくる5つの提案

- 新自由主義から転換し格差を正し暮らし家計応援第一の政治
- 憲法を守り、立憲主義・民主主義・平和主義を回復する
- 権主義への従属・屈服外交から抜け出し、自主・自立の平和外交に転換
- 地球規模の環境破壊を止め、自然と共生する経済社会をつくる
- ジェンダー平等社会の実現、多様性を大切にし個人の尊厳を尊重する政治